

『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』 『ターゲットと指標』 授業での活用事例

高等学校編 (2022年)

総合

- P2・・・京都府立鴨沂高等学校 対象：2年生
『現代社会の課題とその解決法』について考える
- P5・・・東京都立総合芸術高等学校 対象：2年生
SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう
- P6・・・和洋九段女子高等学校 対象：3年生
「問い」を深める
- P8・・・北海道標津高等学校 対象：1年生
野付巡検とSDGs
- P10・・・清真学園高等学校 対象：2年生
SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

家庭総合

- P14・・・東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来の家はどんな家
- P17・・・東京都立国際高等学校 対象：2年生
What's SDGs?
- P21・・・東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来のつくり方
- P24・・・東京都立国際高等学校 対象：2年生
未来社会の設計者

家庭基礎

- P26・・・宮城県泉館山高等学校 対象：1年生
SDGsと私たちの生活

総合探究

- P28・・・工学院大学附属高等学校 対象：1年生
1学期探究プロジェクト 八王子動画プロジェクト

探究

- P29・・・日本文理大学附属高校 対象：1年生
総合探求

課題研究

- P31・・・大阪府立桜塚高等学校 対象：2年生
課題研究（グローバル・スタディコース）

現代社会

P33・・・山形県立米沢東高等学校 対象：3年生
国際経済のまとめ

工業

P35・・・愛知総合工科高等学校 対象：1年生
SDGsと学校の未来

生物

P37・・・秋田県立新屋高等学校 対象：3年生
新屋高校SDGs授業実践

特別活動

P39・・・別府溝部学園高等学校 対象：1～3年生
SDGs講習会
～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

マーケティング

P41・・・東京都立王子総合高等学校 対象：2・3年生
現代市場とマーケティング（ソーシャルマーケティングなど）

LHR

P42・・・埼玉県立大宮武蔵野高等学校 対象：2年生
今考えなくてはならない事・今できる事

放課後の活動

P45・・・福岡県立筑紫学校 対象：2年生
SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

進路決定者講座

P47・・・桐朋女子中・高等学校 対象：3年生
桐朋女子×SDGsプロジェクト

特別支援学校

現代の国語

P53・・・福島県立平支援学校 対象：1年生
自分たちにできることは何だろう

『現代社会の課題とその解決法』について考える

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

対象	第2学年	単元名	『現代社会の課題とその解決法』について考える
科目	「総合的な探究の時間」	目標	その1 ローカル・グローバル双方の視点で様々な課題を発見し、それらの課題を解決していくための資質・能力を育成する。 (身近な課題や、国際的な課題を、SDGsの視点で考える) その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考え、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得。
時間	12時間		
参考資料	「未来を変える目標SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標」等		

期待できる学習効果

その1 SDGsについて、各自解決したいテーマを選び、その現状(原因)を分析した上で、その解決の方策を考えることで、課題を解決していくための資質・能力を育成することができる。

その2 探究的な学習を通して、よりよい世界を築いていくために、どのように取り組んでいけばよいかについて考えることで、自己の在り方・生き方に生かす視点を獲得することができる。

授業内容

『現代社会の課題とその解決法』について考える

① テーマを設定する

- ・ 現代社会の課題(身近な課題、国際的な課題)から各自探究するテーマを設定する。
- ・ SDGsとの関連について、「アイデアブック別冊」を配付し、「誰一人取り残さない」という視点から、国内外の様々な課題(貧困・差別・環境・ジェンダー・教育など)について調べさせる。(「社会の課題」を解決するために、他人ごとではなく、各自、主体的に関わっていくにはどのような方法があるか考えさせる。)(時事的な問題、身近な問題などを提示し、ローカル・グローバル双方の視点で考え、行動することの大切さに触れる。)(SDGsについては、YouTubeの動画や、テレビ番組などで興味関心を喚起するものを選び、視聴させることで、積極的に取り組めるよう促す)(「アイデアブック」別冊の活用)(図書の利用…参考にした冊子の内容と、その内容に対する意見をまとめる)(タブレットなどによるweb検索の利用)

② 解決の方策について考え、お互いの意見を交流する。

- ・ 各自テーマについて調べ、「ロイロノート」を用いて、「解決したいテーマ」「原因」「理想状況」「解決への方策」について、整理し、互いに交流する。
- ・ 「キーノート」を用いて、プレゼンテーション案を作成する。(発表)

③ ①②を踏まえ、個人研究レポートを作成し、交流する。

『現代社会の課題とその解決法』について考える

学校名: 京都府立鴨沂高等学校 名前: 岩崎 俊之

生徒のテーマ、反応など

☆生徒選択テーマ例☆

「女性が生きやすい社会を目指して」「子どもと貧困」「ゴミ問題について」「生きにくく感じて」「勉強ができる幸せ」「水と健康の関係」「動物の大量絶滅」「日本における医療問題」

☆生徒感想抜粋☆

「今、私が平和に生きている中で、世の中ではいろいろなことが起きているのが改めてわかりました。特に、水が当たり前できれいな日本に生きているから考えたことはほとんどなかったけど、きたない水を飲んで、年に何百万人も亡くなっていることを知り、驚きました」

「男女平等の社会を実現するためには、皆の意識を変えていくことが大切であることがわかりました」

「ゴミ問題について、3Rは私たちにも簡単にできることなので、将来の地球のためにも取り組んでいきたいです」

「水と健康の問題について、アフリカなどのことを、世界全体で考えていくべきだと思いました。身近な支援から積極的に行っていきたいです」

「子どもと貧困の問題について、貧困に陥っている人が、何億人もいるということに驚いた。少しでも皆が平等な暮らしができるといいなと思いました」

「世界では、教育を受けたくても受けられない人が多いことを知りました。当たり前で教育を受けられている今がとても幸せだと思いました。自分たちはできているからと無関心ではだめだと思いました」

「動物の絶滅について、人間の活動によって生態系が破壊されることはあってはならないと思いました」

「人は社会の中でしか生きることができないからこそ、社会をより良くすることで、自分の人生をいいものにしていけるべきだと思いました」

「医療問題、特に医師不足について、私たちにできることは、必要でない時に救急車を呼ばないこと、大病院に行く前に、かかりつけ医に行くことなど、いろいろあることがわかりました」

☆生徒発表の様子☆



SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう

学校名:東京都立総合芸術高等学校 名前:佐々木宏

対象	2学年	単元名	SDGsを窓に自分がワクワクする課題を発見しよう
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 自分に取り組んでみたい課題を見つける その2 学校や自分が住んでいる地域につながる形で課題を言葉にする。 その3 夏休みに課題を改善解決するために必要な行動計画をつくる。
時間	2h／週		
参考資料	SDGsアイデアブック		

期待できる学習効果

- ・その1 社会にはどんな課題があり、それに取り組んでいる様々な人たちがいることに気づく
- ・その2 自分自身の興味関心と社会の課題のつながりに気づく
- ・その3 自分自身の力で社会が変わるかも知れないという気づきを得る。

授業内容

授業内容や授業のポイントなどを教えて下さい

- ・自分のしたいことへの興味関心は高い生徒たちだが、専門の分野に視野が狭くなりがちである。SDGsを窓に探究することで、社会には様々な課題があり、その解決改善に取り組んで素敵な活動をしている人たちがいることを知り、自身と社会とをつなぐ通路を見つけ、視野を広くすると同時に、自身の力に気づく。
- SDGsを窓に、自身の取り組みたい課題を改善解決するために、実際に学校の外に出て、様々な社会課題に取り組んでいる素敵な人たちと出会うことで、体験的に探究する経験を得る。
- ・体験的な活動を通じて、アタマの中で考えていたことを再検証し、自分のこれからの行動について考えるヒントを得る。
- ・素晴らしい活動をしているチームや個人が、学年全体にプレゼンすることを通じて、学年全体の集団としての社会的関心と主体性を育てていく。

「問い」を深める

学校名:和洋九段女子高等学校 名前:水野修

対象	高3	单元名	総合的学習の時間
科目	総合学習	目標	・自ら設定した社会課題に対する「問い」を様々な角度から検証する ・学習内容の総合的な理解を深める ・自らの「問い」がSDGsのどのターゲットの解決につながるのかを理解する ・グループでの学び合いにより新たな気づきを得る
時間	木曜2限		
参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標		

期待できる学習効果

- ・科目を横断的に学び、複数の視点から学習内容を理解し、総合的な視野を持つことができる
- ・主体的に学び、問題解決能力や批判的思考力、創造力などを高めることができる
- ・社会と学びを結び付け、社会課題の解決へのアプローチをライフワークにすることができる

授業内容

- ①自ら設定した社会課題をグループでシェアする
- ②それぞれが設定した社会課題をSDGsの169のターゲットのどの解決に結びつけるかを“SDGsアイデアブック 別冊”を利用しながらカテゴライズする
- ③それぞれが設定した社会課題の解決方法についてグループ全員でアイデア出しを行う
- ④友達からの意見を踏まえて、改めて“問い”を考え直すことと、アクションを創造する

「問い」を深める

学校名:和洋九段女子高等学校 名前:水野修

子どもたちの反応・感想

【生徒の反応・感想】

- ・意外とSDGsのターゲットにはない問題があって、そういうものは日本特有の社会問題なのかなと思った。
- ・人の心理や考え方などが関係する問題は解決に時間がかかるし、解決法を考えてもいろんな問題が次々と出てきてアクションを考えるのに頭を抱えました。
- ・自分が興味のある課題だけでなく、友達が関心を持っている様々な社会課題についても知ることが出来て良かったです。また、友達からアクションを提案してもらうことで、自分では持っていないような視点を得られたのも良かったです。
- ・みんなの意見を聞いて、様々な理想の社会があって良かったです。
- ・今まで自分の問いやアクションを発表する機会があったけど、それに対してのアイデアをもらう機会はなかったので貴重だと思いました。他の人の発表を含め、自分だけでは思いつかなかったことをたくさん得ることができたので参考にしたいです。
- ・自分の意見だけではなく、グループの人の意見を聞いたことで客観的な意見をもらえたり、考えもしなかったようなアクションを提案してもらえて視点が広がった。

野付巡検とSDGs

学校名:北海道標津高等学校 名前:高村 慎太郎

対象	1学年	単元名	野付巡検、SDGs学習
科目	総合的な探求の時間	目標	その1 SDGs とは何か理解を深める。 その2 SDGsの視点を持ちながら、野付半島を巡検する。 その3 巡検で感じた課題について、持続可能な社会のためには何が必要か考える。
時間	7時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGs とは何かを理解し、社会に対する課題意識を持つ。
- ・その2 SDGsの視点から、野付半島に関わる環境問題について考えることができる。
- ・その3 持続可能な社会を形成するために、何が必要か考えることができる。

授業内容

1時間目(SDGs学習)

- ・SDGsについて講義形式や動画で説明する。
- ・SDGsは何か、ワークシートに自分の言葉でまとめる。
(誰のためのどんな目標なのかをしっかりと理解させる。)
- ・17個の目標の中から、自分が興味を持った内容について調べてまとめる。

2時間目(野付半島とSDGs)

- ・野付半島に関わる問題にはどんなことがあるか、ターゲットブックを用いて考える。
(17個の目標の中から、どれと関連が深いかを考える。)
- ・興味があるSDGsについて調べる。
(巡検に行く前に、課題意識を持てるようにし、SDGsの視点を持って巡検に望めるようにする。)

野付巡検

- ・日本最大の砂嘴である野付半島の先端部まで歩きながら巡検する。
- ・アマ藻場をはじめ、動植物を観察する。
- ・漂着物のなかからゴミを拾い、分別・回収する。

3時間目(野付巡検の振り返り)

- ・巡検で気がついたこと、課題だと感じたことをSDGsの視点を持ちながらまとめる。
- ・海洋ゴミ問題について講義から理解を深める。

野付巡検とSDGs

学校名:北海道標津高等学校 名前:高村 慎太郎

授業内容2

4時間目(発表テーマの設定)

- ・環境問題に着目して、持続可能な社会を作るためには何が必要か考える。
- ・3～4人程度の班を作り、発表テーマについて話し合う。
(野付巡検で感じた課題について、SDGsとの関わりを意識しながら、どんなテーマについて調べて発表するか話し合う。)
- ・班で決めたテーマについて、まずは個人で調べる。
(野付半島の現状から、日本の現状、世界の現状に視野を広げ、現在取り組まれている内容や、今後のアクションプランを調べる。)

5～6時間目(発表準備)

- ・班ごとにパワーポイントを作成する。

7時間目(発表会)

- ・班ごとに自分たちで選んだテーマについて発表をする。
- ・発表を聞き、疑問に思ったことなどを質問する。
- ・各班の発表から学んだこと、この学習で学んだことについてまとめる。

子どもたちの反応・感想

SDGsとは何かを理解し、野付半島の環境を守っていくためには、何が必要か考えることができていた。自分たちの身近な問題として捉え、できることから行動していきたいという気持ちになっていた。



SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

対象	高校2年生	単元名	どうすればよい？ 受験数学対策(SDGs編)
科目	総合的な探究の時間	目標	その1 SDGsの17の目標、169のターゲット、232の指標を知ることから、数学的な見方・考え方、活動を通して課題を発見できるようになる。 その2 指標で示された数値(数、割合等)について、その出典を調べることで、必要な情報の収集・整理・分析ができるようになる。 その3 指標の持つ意味、数値化された情報を考察することで、数学的論拠に基づいて、批判的に問題解決の判断ができるようになる。
時間	1時間(2時間のうちの最初の1時間)		
参考資料	SDGsアイデアブック 別冊 ターゲットと指標		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsには、17の目標と169のターゲットの他に、232の数値で示された指標があることを知り、実社会や実生活と自己との関わりについて、自分で課題を立てることができる。
- ・その2 課題を解決するために必要な情報の収集・整理をすることにより、数学的な見方・考え方を働かせ、事象を数値化したり、数学的に表現・処理したりする技能を身に付けることができる。
- ・その3 数学を活用して事象を論理的に考察する力、事象の本質や他の事象との関係を認識し統合的・発展的に考察する力を養うことができる。

授業内容1

受験数学対策をテーマに、総合的な探究の時間(週1コマ)の授業を行っています。大学入試問題の対策だけでなく、高校入試問題や「ドラゴン桜」で取り上げられている学習方法など、幅広く受験数学について取り上げてみました。

この単元では、高校数学の数学Ⅰで扱う「データの分析」、数学Bで扱う「確率分布と統計的な推測」の内容が、どのように実社会や実生活と関わっているかを知るために、SDGsの232の指標について調べ、考察をしました。

受験数学対策をいうと、与えられた大学入試問題を解くことだけになりがちですが、受験まで1年以上ある高校2年生であるからこそ、1年間の受験勉強でモチベーションを保つために、その後につながる数学学習の意味づけができればと考えています。

そこで、今回の授業では、昨今幅広く取り上げられているSDGsには、17の目標と169のターゲットの他に、232の数値で示された指標があることを知り、その数値の意味を生徒と一緒に考えることにしました。

授業の始めは一斉授業のかたちで、文字としての数字だけでなく感覚的にも理解ができるように、日本の人口や世界の人口の変化をいくつかの動画をパワーポイントで紹介し、その中で具体的な数値がどのように扱われているかを確認しました。

その後、生徒は各人のタブレットを使って、232の数値で示されたSDGsの指標が、どのように資料から作られているのかを調べ、その数値の持つ意味を考察しました。

次ページの授業内容2は授業内容の説明に用いたスライド、その次の授業内容3は生徒に配布したワークシートと生徒がまとめた課題「興味を持った目標・ターゲット・指標」の一部です。

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

授業内容2



1



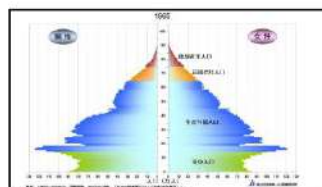
2



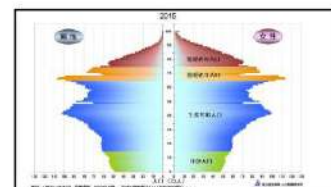
3



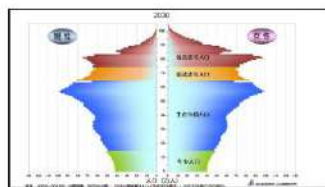
4



5



6



7



8



9



10



11



12



13



14



15



16



17



18

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名:清真学園高等学校・中学校 名前:網敷俊志

授業内容3

授業で使った ワークシートの 説明文

〔活動内容〕

1. 資料「未来を変える目標 SDGs アイデアブック 別冊 ターゲットと指標」から興味を持った目標・ターゲット・指標を2つ選び、このワークシートに書き出す。
2. 指標に書かれている数値（〇〇の数、〇〇の割合等）について、インターネットで調べ、その出典を書き加える。
3. その数値がどのような意味を持っているのか、数値からわかること考察して、自分の考えをまとめる。

振り返り SDGsを通して、高校数学でデータの分析・統計的な推測などを学ぶことの意味を考えてみよう。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標(番号) (内容) 値をきこいふも、読者の長も
- ・ターゲット(番号)
8.5
- ・指標(番号)
8.5.2
- ・出典
厚生労働省
- ・意味
失業率
現代社会の日本の失業率は高くてで、
性別差、年齢、職業、職歴の有無による職業の現状と
- ・考察
女性の男性よりも若い年齢の若者が完全失業率は高く、
女性の方が思われるより仕事に就くことが少ない

現状を知るとは自分自身のアプローチで決まることである。そして、
日本国内での経済格差に与える影響が大きい。また、日本では「7-11」や「ファミマ」など、コンビニエンスストアの数が多く、これは日本の経済状況を示している。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標 (番号) 7 (内容) エネルギーをみんなに そしてグリーンに
- ・ターゲット (番号) 1, 2
- ・指標 (番号) 1, 2, 1
- ・出典 経済産業省! 最終エネルギー消費量
- ・意味 近年の最終エネルギー消費量のうち石油、石炭、天然ガス、再生可能なエネルギーの量を表している。
- 2019年 最終エネルギー 12941 石炭 1311
再生可能エネルギー 43 石油 6196
- ・考察 再生可能エネルギーの量が最終エネルギー消費のうちの2.7%なので、上げなければいけないことを表していると思う。

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標 (番号) 5 (内容) ジェンダー平等
 - ・ターゲット (番号) 5.5
 - ・指標 (番号) 5.5.1
 - ・出典 <https://www.globalnote.jp/post-3877.html>
 - ・意味 2022年 女性議員比率 (上院・下院合計) 国別ランキング: 第14位
- ・考察
- お国のトランプ集団での比率は日本は14.30%と低く、
 何だに差が1%見られます。意欲的な女性がいなければならぬ
 であり、全員が全員を代表していると思いき、今後の日本に面して

興味を持った目標・ターゲット・指標①

- ・目標 (番号) (内容)
10 人々の平等をなくそう
- ・ターゲット (番号)
10.7
- ・指標 (番号)
10.7.3
- ・出典
2021年以降、欧州の移住ルートで 5000人以上が死亡 IOM報告
- ・意味
- ・安全で適切な移住ルートが提供されていない
- ・移民の上陸を阻止する行為「プッシュバック」
- ・移民への支援が提供されていない
- ・考察
安全なルートや支援が十分にあったとしても、受け入れる側の国の国民に差別意識があれば、プッシュバックが増加し、死する移民もそれに比例していくと考えられる。

SDGsの指標から考える数学を学ぶ意味

学校名: 清真学園高等学校・中学校 名前: 網敷俊志

生徒たちの反応

- ・これから1年間続ける受験数学のモチベーションとして、それなりに意味のあるテーマだったようで、授業中の質問だけでなく、授業後にもインターネットでよく調べてからワークシートをまとめている生徒もいました。
- ・日本の人口と世界の人口の動画に関心を持った生徒が多く、特に紀元前200年から2100年までの世界国別人口推移には、かなりの注目が集まっていました。
- ・生徒が関心を持った目標として選んだものは、目標5「ジェンダー平等を実現しよう」が最も多く、次に目標8「働きがいも経済成長も」でした。最近の高校生の関心は、そういったところにあることがよく分かりました。
- ・実際の数学の学習では相関係数について扱っていますが、相関関係と因果関係の違いについて説明したところ、データをどう解釈するかにも関心があったようです。

生徒たちの感想

〔振り返り〕 高校数学で「データの分析、統計的な推測などを学ぶことの意味」を考えてみよう。

- ・1つのデータをかたよった見方ではなく数値を広い意味でとらえたり、他のデータと比較したときに割合の感覚をうまく考えられるようになる。グラフからその事象と条件の関係性をみぬけるようになる。
- ・現時点で言われている数値から逆算して対策を考えることでより有効な手段をとれる。
- ・データから読みとることを学ぶことで、実際のデータが表す今の現状がくみとれる。データの読み方をしっていると知らないでは、生かせるか生かせないか決まるのでは・・・。
- ・推測されたデータなどを見ることで、将来の予測などが出来るようになる。
- ・数字や統計は現実をただ形に表しているだけのもので、それをどのように使用するかは我々によって委ねられている。統計が本当に現実をうつしているのか、ねじれた見方をしていないか吟味をし続けることも我々の大切な責任だと思う。データの分析・統計的な推測を学ぶことは現実をだれでも見られる形に変化させるために必要なことだと思う。
- ・間違えのあるデータを信じない。問題が目で見れる。
- ・統計的な推測などを学ぶことによって、私たちの現状を客観的に見る事ができると感じました。
- ・(SDGsは)世に広まった当初よく騒がれていましたが、結局未だ完璧に解決したという報告は耳にしません。一度に17つもものしかも細かく分類されたことを行うというのは言うだけなら簡単ですが、実際に自ら進んでやろうとはなかなか思えないものです。今楽しければいい、と考える人が多く、将来の人たちのために・・・とも思うことそうそうないでしょう。本来であれば石油を使い燃やすとCO₂を排出するプラスチック製のペットボトルも廃止すべきだと思います。しかし、世界で普及しているため厳しいのが現状です。しょうがない、しょうがないで済ませているうちはいつまでたってもこれらの目標は実現できないのでは、と考えています。
- ・過去から未来を推測し、データとしてまとめる力を育ておくことは、過去を振り返りながら常に先を見通さなければならない現代社会において強い力になる。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象 高校2年生

科目 家庭総合

時間 2

参考資料

LIXIL SDGs
HANDBOOK等

単元名

どのように暮らす？

目標

- その1 日本と世界の住文化について理解を深める。
- その2 環境に配慮した住まいについて科学的に理解する。
- その3 快適で安全な住空間を計画するために必要なことに気づく。
- その4 住居に対する価値観を確認し、主体的に住生活を営むという自覚をもつ

期待できる学習効果

- ・その1 日本や世界で、気候や風土に応じた家が発展していることを理解する。
- ・その2 これからの家に求められる機能に気づく。
- ・その3 住居に取り入れられている様々な技術を知る。
- ・その4 自身の生活を振り返り、過度に便利さや快適さを求めすぎていないか考察する。
- ・その5 SDGsと関連づけながら住まいの課題を探ることで、新たな視座の獲得する。

授業内容

住居の設計に取り組むことで、住空間と人との関係、生活行為と住居、ライフスタイルと住まいの関係等について考えさせている。本時はその前提として、住居の機能や性能、快適な暮らしを支える要因、SDGs達成に向けた新たな技術等を取り上げる。住みたい家について、ライフステージ毎に求められる住空間の変化、未来の家に求められる性能、暮らしに取り入れたい技術等についての意見交換を通して、生徒は住居に対する自身の価値観を確認したり、新たな視座を得たりする。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

<授業の流れ>

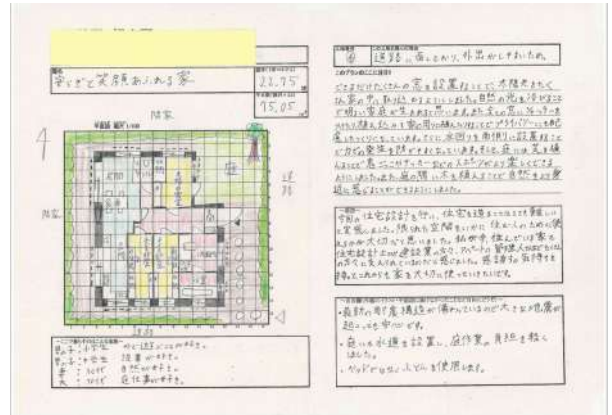
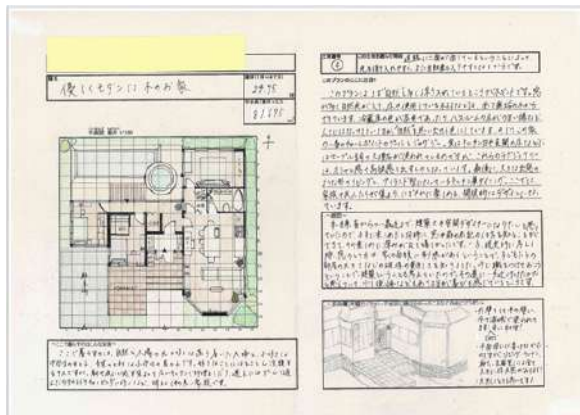
1. 三匹の子ぶたのストーリーから、気候・風土と住居の発展について考えさせる。
 - * 世界各地の住居をパワポや副教材で確認 / 気候変動にも言及
2. 日本の住居に必要な機能、性能について考えさせる。
 - * 地震と住居に関する動画視聴
3. 快適性を支える要因を知る。
 - * 通風、日照等に関する動画視聴
4. 住まい×SDGs(LIXIL 資料参考)
 - * 住まいの課題、新たな技術を取り上げる。
5. 未来の家について意見交換
6. ユニバーサルデザイン・健康等のトピック紹介
 - * 廊下の幅、ドアのデザイン、ヒートショック等
7. 住居の設計導入
 - * 平面表示記号
8. 設計図作成
 - * 残った時間で取り組み、下書き完成は後日
下書きを提出、チェック、清書を提出となる。

未来の家はどんな家

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

- 住居の快適性を支える要因を科学的視点から見る経験は少ないようで、窓の位置と換気の実験映像、窓やサッシの進化、ZEH等は印象に残るようだ。
- 日常生活にすぐ取り込めることが少ないとの声も多く、住居分野の課題の一つである。
- 学んだことを言葉で表現することで、学びの実感する生徒も多い。
- 海外帰国生徒、在京外国人生徒が一定数いる学校であり、他国の住宅事情等について話す生徒は必ずおり、大変興味深い。
- 学びにおいて、SDGs Goal との関連を考える習慣がついており、生徒からGoal 12 への言及もある。
- 設計図は自宅作業可で取り組むため、家族に相談したり、チラシの間取り図やインテリア雑誌を見たりしながら取り組んだという感想が多く寄せられる。



What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2年生
----	-----

科目	家庭総合
----	------

時間	2
----	---

参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック、持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド等
------	--

単元名

環境のためにできることって？

目標

- その1 未来社会の設計者としての自覚を高める
- その2 SDGsに関する知識を深める
- その3 エシカルコンシューマーとしての行動様式を理解する
- その4 世界の課題を解決するための取り組みを知る

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsに関する知識を深める(成り立ち・ゴール・ターゲット等)
- ・その2 中村哲医師の活動を知り、課題解決に向けての取り組みやモデル行動を知る
- ・その3 一つの課題には、様々な問題が絡み合っていることを知る
- ・その4 求められているエシカルコンシューマーとしての行動を具体的に知る
- ・その5 学びと行動を結び付ける

授業内容

家庭科学習と関連付けながら、SDGsの成り立ち、国連広報センターの取り組み、17のゴール、169のターゲット等を取り上げる。社会課題についての理解を深め、目指すべき社会の在り方、自分自身が取り組みたいこと、行動を改めたいことなどを考えさせたい。そして、社会課題を解決するために行動した人物として中村哲医師を取り上げた。生徒は、課題解決には、時間がかかること、資金が必要であること、いくつもの問題が絡み合っていること、パートナーシップの重要性等に気づくようだ。

より良い未来を創るために、すぐに始められる行動についてそれぞれが考え、意見交換を経て、行動宣言をした。行動宣言はTeams のファイルに書き込むことで共有し、更にSDGs ゴールとの関連も示させた。

What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

<授業の流れ>

- (1) 「より良い未来社会を創るために、目標として定められていることは何か？」と問いかける。
→ 本校は様々な教科でSDGsについて取り組んでいるため、このような問いかけで家庭科でもSDGsについて取り上げることを生徒は察する。
- (2) 国連広報センターの動画を視聴することでSDGsの成り立ちや国連の取り組みについて学ぶ。
- (3) 中村医師の取り組み、言葉を取り上げる。生徒は様々な問題を解決してようやく目指すゴールにたどり着くことに気づく。
→ 他国で、その国の人々のために、人生をかけて課題解決に向けて多くの人を巻き込み、活動を続けた中村医師の行動に心を打たれる生徒もいる。
様々な生き方を生徒に示すことにも意味があると考えている。
- (4) エシカル行動について知り、これからの消費者はエシカルコンシューマーであることが求められていると取り上げる。
- (5) すぐに始められる具体的な行動として「持続可能な社会のためにナマケモノにもできるアクション・ガイド」を紹介する。
- (6) それぞれの行動を振り返り、「エシカル宣言」を考える。
- (7) グループで意見交換をする。
- (8) 自分自身のエシカル宣言をもう一度考え、SDGs ゴールとの関連を考える。
- (9) Teams ファイルに書き込み、クラス全体で共有する。

What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

- 本校では、様々な教科でSDGsについて取り上げている。国連広報センターの動画は、よくできており、生徒も興味を持って視聴する。
- Leave no one behind というフレーズは生徒の心を打つようだ。
- 生徒は、家庭科の教科書や資料集にSDGsが取り上げられていることから自分の生活行動と世界的な課題解決がつながっていることを理解するものの、自分1人の行動変容が世界の問題解決につながるという確固たる確信は持てず、揺れる想いを持ったままのようだ。そのような状況でも、意見交換の中で、それでも行動を変えてみよう、一人ひとりの行動の積み重ねで世界は変わるんじゃないかという意見が出れば、「揺れ」も共感や決意に繋がりにくいように感じる。
- 中村哲医師の行動については、知らない生徒の方が多い。授業で取り上げることで、世界的な課題解決のために、自分も活動したい、国連で働きたいという気持ちが更に強くなったと振り返りシートに記す生徒もいる。世界を変えた人物として、今後も授業で紹介し続けたい人物だと考えている。
- 「ナマケモノにもできる…」という表現を、生徒は面白がっていた。「僕にもできるってことだね」と嬉しそうに発言する生徒がいた。すぐできる行動を知ることは、学びを生活に取り込む習慣形成へとつながる。

What's SDGs?

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

<生徒の行動宣言>

私の行動宣言	関連する17の目標 (最大3つまで)		
ペットボトルを買わず、水筒を持ち歩く。			
マイバックを常に持ち歩く			
食べれる分だけ買う・作る、食品ロスをしない			
地産地消を買う・使う			
マイバッグ、マイ箸、マイボトルを使う。ごみを正しく分別する。			
地元や被災地へ応援や支援をする。食品ロスしない。			
地元で育てられた食材を買ってみる			
勉強の時にノートなどの紙を使わずに電子化する。			
他の国に物を送る等のリユースの取り組みがあれば参加する。			
できるだけ節電する			
できるだけプラスチックで梱包してあるものを買わない。			
野菜や果物は近所の八百屋で買って地産地消に励む			
ずっと長く使えるか、本当に気に入ったものかをよく考えてから買い、長く大切に使う			
学校に自販機があることに甘えず水筒を持ってくる			
エアコンの設定温度を1.5度あげる			
服は出来れば古着を買う。			
オーガニックコットンからできた服を一枚以上持つ			
食べ物や電気などを必要最低限の消費量に抑える			
生ごみを土に混ぜて植物の肥料にする			
お皿を洗う時は汚れの少ないものから洗い、洗剤の消費を抑える			
家を出るときは必ず、マイバッグとマイペットボトルを持っていく。			
地産地消を心がけたり、旬の野菜や果物を食べるようにする。			
食べ物を残さず、皮なども利用する。			
水筒を使う。			
過剰包装のお菓子を買わない			
使い捨てではなく長期的に使えるものを買う			
最後まで使い切る・無駄遣いをしない			
プラスチック包装されているものは買わない。食品だったら、量り売りされているものを買う。			
人に優しくする			
マイバックを使う			
マイボトルを使う			
出来るだけ公共交通機関を使う			

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2
科目	家庭総合
時間	2
参考資料	未来を良くするお金の使い方等

単元名
単元暮らしに必要なお金は？ / 自立した消費者とは？
目標
その1 生活における経済と社会の関わりについて理解を深める。
その2 生涯を見通した生活における経済の管理や計画、リスク管理の考え方について理解を深める。
その3 金融商品の特徴、選択のための考え方を知る。
その4 ライフステージ毎の課題、社会保障制度の仕組みを理解し、自身のお金の使い方を考える。

期待できる学習効果

- ・その1 私たちのお金の使い方と社会の関わりを知る。
- ・その2 経済計画に対する長期的な視点の必要性、重要性を理解する。
- ・その3 人生におけるリスク管理の重要性や具体的な方法について理解を深める。
- ・その4 資産形成の必要性を理解し、金融商品の選択基準を知る。
- ・その5 お金をどのように使いながら生きていくか考える。
- ・その6 金融リテラシーを獲得する。

授業内容

人生にかかるお金、生涯賃金等から「支出＜収入」とする方法を考えさせる。生活設計分野を振り返り、人生において「お金」が必要となる時期やリスク管理について言及し、生涯を見通す資金計画の重要性へとつなげる。社会人としてお金を稼ぐようになったら、天引き、先取り貯金等の「貯まる仕組み」を作ることをデフォルトとしたい。そして、資産形成の視点に触れた後、金融商品を選ぶ視点等を取り上げる動画を視聴する。動画の中で、預貯金、債券、株式、投資信託等金融商品の特征を知り、模擬資産形成体験をさせる。ここで、世界の様々な出来事が金融商品に影響を与えることも体験できる。インデックスファンド、税優遇制度があるつみたてNISA、iDeCo等具体的な名称を挙げ説明することで、「貯まる仕組み」を作る際に、これらの金融商品が選択肢となることを期待する。最後は「お金をどう使うか考えることは、どう生きるかを考えること。未来を良くするお金の使い方を考えよう、お金を未来を変える力にしよう」と結んだ。

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

<授業の流れ>

1. 金融リテラシーについて説明する。
2. 人生にかかるお金を予想する。
→ 様々なリスクにも言及しておく。
3. 人生で得られるお金を予想する。
4. 「支出<収入」とする方法を考える。
5. 預貯金、債券、株式、投資信託等の金融商品の特徴を知る。
→ 単利vs複利 / 安全性、流動性、収益性 / 金融商品に対するリスク許容度 / 72の法則等にも言及する。
→ 預貯金は金額は減らないが、価値の変動はあることを伝える。
→ 投資は「未来の自分のために今の自分のお金や時間を使うこと」とも説明しておく。
6. 模擬資産形成を体験する。
7. 投資信託の一つであるインデックスファンドについて取り上げる。
→ 投資信託の「コスト」についても説明する。
→ コストが安い、分散投資等のメリットから、インデックスファンドは具体例としてふさわしいと考えている。
→ GPIFの資産形成、預貯金と投資のつながり、他国の資産形成の在り方、日本の若者世代の動向等を伝え、国としても預貯金から投資へ舵を切ったことを伝える。
8. 税優遇制度があるつみたてNISA、iDeCoについて説明する。
→ ここで「長期・積立・分散投資」を説明する。
9. 金融商品の選び方について考えさせる。
10. SDGsのゴール達成を意識した金融商品について言及する。
→ SDGs×金融 として、ESG投資、ワクチン債等を取り上げる。お金を未来を変える力になる。
→ 社会課題を解決するためのお金の使い方について考えさせる。
11. 意見交換を経て、お金の使い方や金融商品の選び方についてもう一度考えさせる。
12. 振り返りでは、「金融リテラシー」を身に付ける必要性について考えさせる。

未来のつくり方

東京都立国際高等学校 伊東純子

子どもたちの反応・感想

- お金の話は、生徒の関心も高い。ある程度学習が進んだ時期でもあり、経済的自立、労働基準法、社会保障制度等ともつなげやすい。
- 自分でもすぐできることとして、寄付を挙げる生徒は多い。アメリカの4つの貯金箱なども紹介したが、次の世代が創る日本社会では、もっと寄付という行為が一般的になる手ごたえがあった。
- ワークシートには次のような記述があった。
 - ・色々な金融商品を利用して資産を形成する。安全なものもハイリスクだけどリターンが大きいものもバランスよく。
 - ・安全性より収益性が長期に亘って継続される商品を選び、資産形成するのがいいと思う。
 - ・自分の資産の半分くらいは預貯金で安全性を重視して、残りの半分はつみたてNISA、iDeCoで国の金融政策を使いながら、長期に資産形成すればいいと思った。
- 金融リテラシーを身に付ける必要性については次のような記述があった。
 - ・必要なお金と収入のバランスを考えるスキルを学べば、お金の管理で困ることはなくなる。
 - ・金融商品の特徴を知ること、責任をもってお金を使えるようになる。
 - ・高校生で、生涯の経済計画や金融商品について学ぶことで、自立した大人になるための学びに時間を十分持てる。
 - ・自分やまわりの人を守れるようになる。
 - ・長期のメリットは大きいので、早く始めるべき
 - ・お金を持つこと、稼ぐことの責任や大変さを知るとは、親への感謝を再確認する機会になる。

未来社会の設計者

東京都立国際高等学校 伊東純子

対象	2年
----	----

科目	家庭総合
----	------

時間	2
----	---

参考資料	未来を変える目標 SDGsアイデアブック等
------	--------------------------

単元名	生活を見つめてみよう
目標	その1 持続可能な社会へ参画することの意義について理解を深める その2 SDGsに関する知識を深める その3 社会課題を知る その4 自身の行動を振り、ライフスタイルを工夫する

期待できる学習効果

- ・その1 未来社会の設計者としての自覚を高める
- ・その2 SDGsや現代の社会課題に関する知識の定着を図る
- ・その3 意見交換を通して、様々な見方を知る。
- ・その4 学びを行動に結びつける

授業内容

家庭科学習のテーマとしてSDGsの達成を設定してきた。Goal に注目することが多かったので、まとめとしてTargetに注目し、未来社会の設計者としてできること考えた。

家庭科学習を振り返りながら、SDGsの成り立ち、国連広報センターの取り組み、17のゴール、169のターゲット等を取り上げる。1年間の学びを振り返る中でMDGsを経てSDGsが生まれたことへの認識が弱いと感じたので、本時はMDGsについても意識的に強調した。生徒は、目指すべき社会の在り方、自分自身が取り組みたいこと、改めたい行動等について考えた。持続可能な未来社会の構築のためには、一人ひとりの消費生活の在り方が問われていることを認識してほしい。そして、一人で考える→意見交換をする→再び1人で考える ことで、思考の深化を期待している。

国連広報センターの動画、グループでの意見交換、代表者の発表は、生徒の興味を強く喚起するように感じた。

未来社会の設計者

東京都立国際高等学校 伊東純子

授業内容2

<授業の流れ>

- (1) 「より良い未来社会を創るために、目標として定められていることは何か？」と問いかける。本校は様々な教科でSDGsについて取り組んでいるため、「SDGs」と声があがる。
- (2) 国連広報センターの動画を視聴することでSDGsの成り立ちや国連の取り組みについて思い出す。
- (3) Goal については、何回か取り上げており、本日はTargetに注目することを伝える。
- (4) Goal 2 Target の穴埋め課題に取り組む。キーワードの穴埋めであり、これまでの学びから予想できる。
- (5) Targetが示された教材を配布する。
- (6) Target も参考にしながら、改善のための取り組みが急がれる、興味あるGoalを選び、改善のためにできることを考える。
- (7) グループで意見交換をする。
- (8) 代表者が意見交換の内容を発表し、クラスで共有する。
- (9) 意見交換、発表を踏まえ、もう一度できることを考える。

子どもたちの反応・感想

- ワークシートには、SDGs GoalやTarget を達成するためにできることとして、エコバック・マイボトルの持参、紙ではなく電子データでの記録・保管、使い捨て商品の廃止、洋服のリサイクルやリユース、社会的弱者への配慮行動、電子機器の適正なリサイクル等が記されていた。
- 生徒にとって、分かりやすい「大量消費」はプラスチックだ。プラスチックの海洋汚染、他国への影響、環境負荷等に言及した生徒が多い。
- 気候変動、自然災害について取り上げた生徒は、自助・共助への準備に触れ、地域社会の一員として地域の活動に参加することの必要性を述べている。この視点は、授業に取り入れるべきだ。
- Goal 達成のためには、資金も必要であり、寄付やESG投資等もこれまで取り上げてきた。残念ながら、寄付やESG投資等について言及した生徒は数名であり、取り上げ方の再考が必要である。
- 本校の場合、英語が母語の生徒がいる、英語の学習意欲が高いことから、Goal とTarget の日米併記の希望があった。



SDGsと私たちの生活

学校名:宮城県泉館山高等学校 名前: 天川葉子

対象	高校1年	単元名
科目	家庭基礎	オリエンテーション
時間	3時間	目標
参考資料	アイデアブック等	その1 SDGsの目標についての理解を深める。 その2 私たちの生活とSDGsの17の目標との関連を知る。 その3 SDGsと関連付ける活動をとおして、家庭基礎の学習についての見通しをもつ。

期待できる学習効果

- ・その1 世界中の様々な取り組みを知り、17の目標についての具体的なイメージをもつことができる。
- ・その2 具体的な取り組みを知り、自分の生活に取り入れられることを考えることで、SDGsの目標を自分事として捉えることができる。
- ・その3 今後の学習に対する興味関心を高めることができる。

授業内容

○1時間目

アイデアブックを個人で読み、関心をもった取り組みやSDGsの目標を挙げる。
グループ内でそれぞれが関心をもった取り組みや項目について発表し合い、共有する。

○2時間目

前時に個人で出し合った取り組みや項目の中から、自分たちの生活にかかわる内容をグループで一つ選び、今後生活する上でどう行動すればよいか、また自分たちが意識したいことやその解決に向けた課題などを話し合う。

○3時間目

前時まで話し合った内容をグループごとに発表し、クラス内で共有する。その際、発表を聴いて、その発想に共感できる点などを書き出すことで自分事として捉えられるようにする。

SDGsと私たちの生活

学校名:宮城県泉館山高等学校 名前:天川葉子

子どもたちの反応・感想

学習の過程において、生徒たちは様々な視点で生活の課題や社会の矛盾に気づき、一人一人、思想や思考は異なるものの、自分だけの価値観にとらわれすぎず、広い視野で生活することの大切さに気づいたようだった。また、家庭基礎の科目を学ぶ意義やその内容についての理解を深めることができたようである。

1学期探究プロジェクト 八王子動画プロジェクト

学校名:工学院大学附属高等学校 名前:中川千穂

対象	高等学校1年生	単元名	1学期総合探究の時間 グループ探究プロジェクト
科目	総合探究	目標	その1 プロジェクトマネジメントを学ぶ その2 社会と繋がる その3 チームワークを育成する
時間	土曜日4時間目		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 計画立案能力の育成
- ・その2 社会常識を学ぶ
- ・その3 協働能力の育成

授業内容

①視点を広げる

高等学校1年生、入学直後からこのプロジェクトを始めました。入学式翌日から始まるオリエンテーションで、生徒たちは貿易ゲームをしました。6人前後のグループが一つの国となります。各グループには、紙、コンパス、鉛筆、定規、はさみ、クリップが、不平等に配付されます。それぞれの品は、資源、技術、お金を表します。紙で作った三角や円を世界銀行に売るとお金になります。最も儲かった人が勝ちです。初対面の生徒同士が協力して紙を切ったり、長さを測ったり、世界銀行に売りに行ったり、作業しました。最も儲かったチームは、他国を巻き込んで、資源を格安で手に入れたり、労働力を買うこともありました。比較的儲かったチームは皆、産業廃棄物の紙ごみが周りに散らばっていました。この後、各チームで反省会をしました。まず、自らの働きっぷり、それから、社会、世界の中で貢献したかどうか、です。儲けることを目標としたためか、社会貢献の視点が欠けていたことに気付きました。最後に、実際の世界情勢と照らし合わせてみました。一体、何が問題なのだろうか。それを解決するにはどうしたらよいのだろうか。各チームで話し合いました。SDGsのどのゴールが問題となるかを考えました。各クラスの本棚にSDGsの書籍を置き、各チームで活用しながら、考えました。

②地元を考える

貿易ゲームの後、八王子市役所の方々にお越しいただき、地元の魅力について講演していただきました。本校は東京都八王子市に位置し、地元を知ろう、という取り組みです。八王子市は、高尾山などが日本遺産に認定されており、絹織物など伝統工芸品の保全に取り組んでいます。地域活性化を目指して、八王子市の広報活動を実施できれば、と思い、生徒たちは八王子市の魅力を学び、考え、そのアピール方法を考えました。

③自分ができることを考える

総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

対象 1

科目 探究

時間 5

参考資料

SDGsアイデアブック等

単元名

SDGsに関する具体的な取り組みを知る

目標

SDGsに関する具体的な取り組みを知る

期待できる学習効果

- ・ SDGsに関する具体的な取り組みを知り、自分でも出来る取り組みを考える。
- ・ 自分が何が出来るか、何をすべきかを考え、行動につなげる。

授業内容

SDGsアイデアブックから興味関心を持った取り組みを調べる。
タブレット等を活用する。

感想をオンラインで記入させ、閲覧させた。



総合探求

学校名: 日本文理大学附属高校 名前: 安東慎一郎

授業内容2

SDGsの具体的事例を知り、自分に何ができるか考える。
自分が何ができるか、何をすべきかを考え、行動につなげる。



子どもたちの反応・感想



1518 田北璃空

この世界にはたくさんの人のアイデアが実現化されているのだと思います。貧困の人や飢餓状態の人は年々減少はしているがまだまだ世界中にいますのでもっと多くのアイデアを出して少しでも多くの人を助けられるような社会になればいいと思います。



1529 山本駿

世界中の貧困をなくしたりするために空気中の水蒸気を集めて水にしたり、排泄物を肥料にしたりなどリサイクルや工夫がされていることがあった。自分の父がリサイクル活動などをしているので積極的に参加していきたい。



1538 阿部あけみ

私達のような学生でも個人でできるようなことがたくさんあったので実践していきたいです。自分が良ければそれでいいという考えではなくたくさんの人ができるだけ平等に幸せに暮らせる世界になればいいと思います。



1535 染矢そら

今回の授業でまたSDGsについて考えることができました。貧困をなくしたり、自然を守ったり様々なことを解決しなければならいので難しいとは思いますが2030年までに少しでも問題が解決したらいいと思います。特に温暖化の進みを遅くするための行動は少しでも取らないといろんな生物が絶滅するかもしれないのでそこを変えるべきだと思います。

課題研究(グローバル・スタディコース)

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

対象	2年	単元名	課題決定のためのブレインストーミング
科目	課題研究	目標	その1 SDGsの全体的概要を把握する その2 自らの関心に基づいて、設定するテーマの候補をあげる その3 テーマとSDGsの関係を掘り下げていく
時間	2時間		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 今、世界でどのような社会課題があるのかを、概観できる。
- ・その2 自らが社会とどのように関わっていくのかを考えていく契機となる。
- ・その3 具体的な社会的アクションを考えるヒントを得ることが出来る

授業内容

- ① 自らの興味・関心に基づき、課題研究のテーマとなる事柄を、ブレスト形式で思いつくままにあげていく。
- ② ①であげた項目を整理し、テーマとなる事柄を2～5項目くらいにまとめる。
- ③ アイデアブックをつかって、②の項目のそれぞれがどのカテゴリーと関連するかを考える
- ④ ③で考察した結果をまとめて、学習アプリ・ロイロノートを使って、教員やクラスの他のメンバーと共有する。

学校名:大阪府立桜塚高等学校 名前:田上 浩

授業内容の④のロイロノートの「提出箱」のスキャンを添付します。

画面配信

国際経済のまとめ

学校名:山形県立米沢東高等学校 名前:小林智子

対象	高校3年	単元名	国際経済のまとめ
科目	現代社会	目標	その1 国際経済の単元で学んだことを活用し理解を深める。 その2 より良い社会の実現に向けたパートナーを増やす。 その3 共感者を得るための表現力を高める。
時間	2時間(授業)		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・SDGsに対する理解を深め、SDGsを自分事にする
- ・国際社会の問題や日本国内での問題について理解し、課題解決にむけた提案を行う
- ・様々な価値観に気づける

授業内容

対象テーマを指定し、各自が興味関心をもったテーマを選択し探究学習を行った。

【対象テーマ】

- ①歴史的円安(ドル高)の背景と影響
- ②絶対的貧困と相対的貧困、日本の実態と対策
- ③フェアトレード・エシカル消費で世界を変える
- ④エコツーリズム
- ⑤サステナブルファッション(環境省HP)
- ⑥SDGsに関すること
- ⑦その他「国際経済」に関すること

レポート(GoogleスライドA4サイズ)を作成⇒グループ発表⇒代表者発表

自分自身の興味・関心で選択したり、進学後の学びと関連付けてテーマを設定する生徒も多かった。参考文献として、『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を全員に配付し、テーマを設定する際や世界や日本の取り組みについて情報収集活動で活用した。また、教科書で取り上げられているグラミン銀行なども紹介されており、関連付けながら学びを広げる機会になった。レポートにまとめる時間が必要であったが、実際は家庭学習としてレポート作成を自宅等で行った時間が多い。重複したテーマは、貧困問題であった。日本の貧困に目を向けさせるため、教員・保育士・医療・福祉といった分野に進学する生徒に勧めたためである。発表会では、自分と異なるテーマを設定して作成したレポートを発表に関心を持ちながらお互いに質疑応答する姿も見られた。

国際経済のまとめ

学校名: 山形県立米沢東高等学校 名前: 小林智子

授業内容2

SDGs理解促進ツール「ひとこと多い貼り紙」でSDGsポスターを作ろう

参考: JANIC(ジャンニック)ホームページ<https://www.janic.org/world/sdgstool/>

JANIC(ジャンニック)は、NGOの力を最大化することで、世界の社会課題解決の促進を目指す、ネットワークNGOです。

アイデアブックを参考に、SDGsについて理解を深め、校内外を想定して世界や日本の現状を訴えながら人々の行動を変えるポスターを制作した。

子どもたちの反応・感想

上記1番目のレポート発表については、相対的貧困・絶対的貧困に関する問題が2023年1月実施の共通テストで出題された。レポートの発表活動を通して、幅広いテーマについて知り、考える機会になった。教師が教えるよりも生徒が教え合うことで、記憶にも残りやすいようだ。また、上記2番目のひとこと多い貼り紙についてのポスター制作では、発想力を鍛える機会になった。いずれにしても、考える土台としての情報が必要であり、SDGsを他人事せず自分事にしていくためのアイデアブックの存在は大きいと言える。SDGsの目標を理解することも大事だが、実際にどのような活動があり、自分にもできることはないかを考えさせる上でなくてはならない教材として今後も活用していきたい。

SDGsと学校の未来

学校名:愛知総合工科高等学校 名前:川田大介

対象	1年	単元名
科目	工業	SDGs
時間	4時間	目標
参考資料	知識・技能 目標とターゲットをまとめ、要約することができる 思考・判断・表現 目標とターゲットを理解し、学校で取り組むことができるアイデアを記述し、説明できる。 主体的に学習に取り組む態度 身近な未来を変える方法について関心を持ち、タブレットを用いて意欲的に学習に取り組み、協働して学ぼうとしている。	
アイデアブック SDGsカード		

期待できる学習効果

- ・コミュニケーション力 お互いが考えていることを伝え、わかり合い、概念を共有する能力
- ・SRストーリー展開力 過去→現在→未来の推移を、やり方と結果を対比したストーリーで説明する能力
- ・ロジカルシンキング力 ものごとの因果関係を明確化し、つながりをもって考える能力

授業内容

これからの時代に求められる人材像とは、企業の将来へのさらなる持続的成長に向けて、自分を取り巻く環境を敏感に感じ取り、解決すべき問題・課題を自ら発見し、解決へ向けて自ら職場をリーディングできる人材である。新入試では「論理的思考力・判断力・表現力等を適切に評価する」、「複数の素材を編集・操作し、自らの考えを立案し、さらにそれを表現するプロセスを評価する」とあるように自分の考えを組立、表現する力が求められている。今、予想されている未来を把握し、社会・未来・海外・他者視点とステージを変え、ゼロから1を生む経験を繰り返しながら自らの発案を形にし、肯定的なフィードバックを受けることで生徒自身の主体的な意欲創出の学びの場を提供する。具体的には、1年の工業技術基礎で、SDGsの目標とターゲットを理解し、多様な問題に直面しても対応でき、心理的惰性(自分の経験や常識に縛られる)を打破し、従来の発想に囚われないアイデアを創出するチームダイナミズムが生み出された探究型学習を行う。

SDGsと学校の未来

学校名:愛知総合工科高等学校 名前:川田大介

授業内容2

アイスブレイク

グループになり、SDGsカードを机上にカルタのようにバラバラに並べ、最近のニュースや新聞の記事を思い出しながら話し合う。

目標の提示

校内をフィールドワークして関連のある目標を1つ選び、発表する。

導入

SDGsアイデアブックの目標、ターゲット、指標を確認する。

展開

校内をフィールドワークして、気になったところをメモする。

教室に戻り、グループで情報共有してプリントにまとめる。

まとめ

各グループのまとめをクラス全体で発表し、多様な視点や考え方を理解する。

子どもたちの反応・感想

- ・普段あまり意識せずに使っているモノ(ストローやビニル袋)でも、未来のために持続可能性を意識してごみを減らしていくことがたいせつだ。
- ・グループと自分の間で、同じターゲットに対して多様な考え方を共有できた。
- ・この時代でできることを真剣に考えて取り組んでいかなければいけないと感じた。



新屋高校SDGs授業実践

学校名：秋田県立新屋高等学校 名前：阿部大輔

対象	3年	単元名	生物 第5編 第4章 生態系と生物多様性 など
科目	生物	目標	(1) 生物多様性に関する記事をピックアップし、自身の考えをまとめよう！ (2) 脱炭素化に向けたアクションプランを作成し、宣言しよう！ (3) 秋田県におけるローカルSDGsの事例を調査し、ボードゲーム問題をつくろう！ (4) SDGsに関連した仮想企業を設立し、そのホームページを作成しよう！
時間	合計 10時間		
参考資料	SDGsアイデアブック 「ターゲットと指標」 SDGsボードゲーム等		

期待できる学習効果

- (1) 学習内容と日常生活のつながりを実感し、自身の考えを表現することができる。
- (2) 脱炭素化に向けた事例を調査しながら学びを深め、自身の行動変容に繋げることができる。
- (3) 秋田県内におけるSDGsの取組事例について把握し、高校卒業後についてどのように関わるか等考察を深めることができる。
- (4) SDGsの視点での「提案力・企画力」を育むと同時に、デザインスキルの向上に繋げる。

授業内容

(1) 生物多様性

生物多様性に関する新聞記事を各自3つピックアップし、JamBoardに整理して提出。
* 使用した新聞は毎日新聞／朝日新聞／読売新聞／秋田さきがけ新聞

(2) 脱炭素化

- ① 脱炭素化に関連する事例をGoogleスライドに整理し、グループごとにプレゼンを実施。
- ② プレゼン後、脱炭素化に向けたアクションプランをグループ内で宣言する。
* 研究授業でも実施

(3) ローカルSDGs(秋田県版ボードゲームの問題作成)

- ① SDGsボードゲームやBeyond SDGs 人生ゲームを各クラスでプレイ。
- ② 秋田県内におけるローカルSDGsの事例を調査(秋田県SDGsパートナーを参照)
- ③ SDGsに関する課題とその解決方法を整理し、Googleフォームに入力
→SDGsボードゲーム秋田県版へ繋げる予定。(R5年度中の完成を目指す)

(4) 仮想企業の起業

- ① SDGsに関連するテーマで仮想企業を思案する。
- ② 仮想企業におけるミッションを面談しながら、決定する。
- ③ ミッションに基づき、仮想企業における取組を思案し、Googleサイトを用いてHPを作成する。
→今後のアントレプレナーシップ教育に繋げる予定。

新屋高校SDGs授業実践

学校名: 秋田県立新屋高等学校 名前: 阿部大輔

授業内容2

(1) 生物多様性の記事を整理



(2) 脱炭素化事例に関してスライド制作



(4) 仮想企業のHP作成事例



(3) ①SDGsボードゲーム



(3) ②Beyond SDGs 人生ゲーム



子どもたちの反応・感想

(1) 生物多様性

- ・新聞記事を要約し、SDGsとの関連を見つけ、自分の力で発表することができた。
- ・環境問題の取組がたくさんありもっと知りたいと思った。特にハタハタの記事が印象深いです。

(2) 脱炭素化

- ・脱炭素化に向けては様々なプランがあるが個人で取り組むよりもみんなで協力したほうが早いと思った。
- ・クリーンエネルギーについて詳しく理解できた。

(3) ローカルSDGs(秋田県版ボードゲームの問題作成)

- ・秋田県で行われたフードドライブやエコキャップ運動はもっと色々なところで広まれば良いと思った。
- ・自分たちと同じ年の高校生が環境を変えられるものを生み出したと知り、自分でもなにかできそうな可能性を感じた。また、高校生ができるのであれば規模を大きくして機関や企業もできるのではないかと考えた。
- ・SDGsについて考える機会が年々増えて、身の回りにある改善できることや、考え直さなければならないことがたくさんあると感じました。秋田県の取り組みなどが分かって、私も日々SDGsについて考えながら生活していきたいです。

(4) 仮想企業の起業

- ・HPを作るのは難しかったけど、比較的簡単に良いデザインのものを作り上げることができて満足。
- ・環境貢献と利益を結びつけるのに苦労したが、そのような視点を持つ大切さを理解できた。

SDGs講習会

～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

学校名：別府溝部学園高等学校 名前：松本 明美

対象	高校1年～3年	単元名	SDGs講習会
科目	特別活動	目標	近年、ニュースや新聞等でよく目や耳にするSDGs。しかし、私達の生活にどのように関係するのか、また、具体的にどのように取り組めば良いのかがあまりわかっていません。行動の10年と言われるこれからの時代を生き抜く高校生としてSDGsの内容や私達の生活との関わりを知り、高校生の私たちにできることを考えよう！
時間	2時間		
参考資料	アイデアブック等 講師が作成した資料		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsの本来の意味を知り自分たちの活動に生かす
- ・その2 学校生活や日常生活等でSDGsに取り組む
- ・その3 SDGsの身近さを知る

授業内容(第1部)

大分県環境教育アドバイザーであり立命館アジア太平洋大学アジア太平洋学部教授の須藤智徳氏をお招きしオンライン形式でSDGs講習会を行った。須藤氏はSDGsの立ち上げにも携わっておりSDGsのスペシャリストである。「SDGsの本来の意味」というテーマで高校生の活動につながるヒントを教えていただいた。

SDGs講習会

～SDGsを知ろう！そして高校生の私たちにできること！～

学校名：別府溝部学園高等学校 名前：松本 明美

授業内容（第2部）

大分県環境教育アドバイザーでありSDGsde地方創生カードゲームのファシリテーターである松山真弓氏をお招きしSDGsde地方創生カードゲームを通してSDGs達成のために今何ができるのかそして、どのような取り組みが必要なのかを高校生にもわかるように教えていただきました。

現代市場とマーケティング（ソーシャルマーケティングなど）

学校名：東京都立王子総合高等学校 名前：幸田佳代

対象	高校2・3年次	単元名	現代市場とマーケティング（ソーシャルマーケティングなど）
科目	マーケティング	目標	その1 アイディアの創出方法になれる その2 グループの仲を深める・チームビルディング その3 ポジティブに意見を出し合い、協力する
時間	2時間		
参考資料	・アイデアブック ・The SDGs アクション カードゲーム クロス		

期待できる学習効果

- ・その1 発想力を鍛える
- ・その2 グループで協力する力を養う
- ・その3 プレゼン能力を鍛える

授業内容

「アイデアブック」からSDGsのターゲットを確認し、どのようなアイディアがあるのか参考にする。

金沢工業大学の「The SDGs アクション カードゲーム クロス」を使って、社会課題の解決方法を考える。

その解決方法は、どのターゲットを解決することになるのか、「ターゲットと指標」から発表できるようにする。必要があれば、いったん決めた解決方法を、一部変更する。

今考えなくてはならない事・今できる事

学校名：埼玉県立大宮武蔵野高等学校 名前：池田 弘太郎

対象	高校2年生	単元名	海のゴミ(汚染状況)について
科目	LHR	目標	その1 海の汚染具合の現状を知る その2 今後どうしなければならないか意見を交換する その3 今すぐできる事は何か考え本日より実践する
時間	1時間		
参考資料	別紙資料(プリント)等		

期待できる学習効果

- ・その1 身の回りに起きていることを知る
- ・その2 今すぐ改善できることを探る
- ・その3 自分たちで決めた個人・クラスとして取り組むことを実践する

授業内容

- ①埼玉県という環境から現在の海の汚染状況がわかりにくい。そこでまずは自分の想像で海の汚れ具合はどうなっているか考え、周りの生徒と意見交換を行う。
- ②各自資料を利用して現状を知る。またそこから5年後、10年後・・・2050年には海はどんな状況になっているかを考える
- ③では少なくとも今より海が汚れないようにするにはどうしたらよいか、何ができるかを考え周りの人と意見を交換する
- ④担任が生徒の意見を聞き、最後に意見をまとめ今すぐできる事、今からできることをクラスで共有する。

今考えなくてはならない事・今できる事

学校名：埼玉県立大宮武蔵野高等学校 名前：池田 弘太郎

取り組み中の子どもたちの様子



学習前

- ・ゴミが落ちていても気にしていなかった
- ・関心がなかった
- ・少なからしいと思い、ゴミを混ぜていた
- ・今までSDGsについて知らなかった
- ・ペットボトルの分別が面倒だった

学習後

- ・世界が一体になって解決して欲しい
- ・ペットボトルのラベルを剥がし、分別を行う
- ・極力ゴミを出さないようにする
- ・ゴミを拾う(自分のゴミでなくも拾う)
- ・とにかくゴミを分別する(資源を大事にする)
- ・マイボトルを使う
- ・ごみ問題に関心を持つことが大事だと思った
- ・人間だけではなく動物にも影響を与えていると思った
- ・絶対にポイ捨てをしない
- ・レジ袋など本当に気必要じゃない限りもらわない
- ・普段からのちょっとした気遣いが大事

SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

学校名:福岡県立筑紫学校

名前:藤井 香奈

対象	2学年希望生徒	単元名	SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト
科目	放課後の活動	目標	その1 学びたい学問分野とSDGsのつながりを考える活動を通して、進路探究を深める。 その2 SDGsターゲットの英語原文から日本語訳を考える活動を通して、英語学習への意欲を高める。 その3 身近な生活からSDGsの課題や解決に向けた取り組みを探すことで、SDGsの視点から社会と学問について考える。
時間	放課後・週2回		
参考資料	アイデアブック等		

期待できる学習効果

- ・その1 SDGsターゲットアイコン日本語を自分で考えることでSDGsの内容を自分事として主体的に考えることができる。
- ・その2 学びたい学問分野に関連するSDGsターゲットを自分で考えて選択したことにより、「社会」・「学問」・「自分」の関連性に気付くことができる。
- ・その3 SDGsターゲットの英語原文から日本語訳を考える活動で、英語原文と翻訳とのニュアンスの違いに気づき、英語学習の必要性を気付くことができる。

授業内容

①探究ターゲットを決める ・学びたい学問分野とSDGsのつながりを考える。 ・学びたい学問分野を記入する。 ・学問分野を選んだ理由を記入する。 ・学問とつながりがありそうなSDGsをつなげてみる。 ・学問と関係するSDGsを結んだ理由を記入する。
②英語の原文を読む ・個人でターゲットの原文を読み、訳をする。 ・自分の訳と翻訳を比べて、訳やニュアンスの違いを探す。 ・3人グループを作り、共有:生徒が読んだ3つのターゲット内、1つを共有する 1.自分の訳と翻訳の違いを感じたターゲット 2.最も興味のあるターゲット
③社会問題を知る ・ターゲットに関連する・興味があるものを持ち寄り、グループでその紹介をしていく。 ・視聴者は以下の観点に基づき、コメントを付箋に書き、発表後に発表者に渡す。 →観点:共通点(SDGs・学問)・共感(興味・関心)・新たな学び
④キャッチコピーを考える 参考資料:博報堂 SDGsコラボレーションブック2019 NPOのための、キャッチコピーの作り方 ・キャッチコピーを考える(考えるポイント ①ターゲット層 ②視点 ③関連付けたい社会問題)

SDGsターゲットアイコン日本版制作プロジェクト

学校名:福岡県立筑紫学校

名前:藤井 香奈

授業内容2

⑤SDGsターゲットアイコン日本版 発表会準備(発表はKP法)

・KP法でのプレゼンテーション方法を教員によるデモンストレーションで説明

・発表内容

- 1.ターゲットの紹介・キャッチコピー設定理由
選択理由(進路のつながりも含めて)、原文・原文訳、キャッチコピーのターゲット層や考えた視点、
関連付けた社会問題
- 2.キャッチコピーの内容発表
- 3.キャッチコピー作成を振り返って
工夫した点、難しかった点、感想

⑥SDGsターゲットアイコン日本版 発表会

発表方法

4人程度のグループ、KP法を利用

聞き手のコメントシート

- 1.興味・関心を引いたもの、もっと知りたいと思った内容
- 2.他の人の発表で自分も取り入れたいと思った考え方・内容
- 3.最終報告会を通しての気づきや新たな発見

子どもたちの反応・感想

今日の活動を通して、同じ課題が与えられていても話し合っているメンバーやその時自分が重要視していることなどによって考え方は様々であるということに気づいた。友達の意見を聞いて自分の視野にはなかったことにハッとさせられることが多くてSDGSについてより理解を深められた。

改めて考えてみると、SDGsのゴールはどれもつながっていると感じました。また、緊急度や分類において同じグループ内でも捉え方が変わってきて面白かったです。つながりや捉え方をうまくまとめながら一つの意見に仕上げていくのがとても難しく、勉強になりました。

今後さまざまな場面で話し合いの活動があると思いますが、色々な人のさまざまな角度からの意見を聞きつつ、まとめていく力をつけていきたいです。

また、SDGsについて分かったつながりなどを総合的な探究の時間の活動にも生かしていきたいと思っています。



桐朋女子×SDGsプロジェクト

学校名: 桐朋女子中・高等学校 名前: 吉崎亜由美

対象	高等学校3年	単元名	桐朋女子×SDGsプロジェクト
科目	進路決定者講座	目標	その1 学内外の社会課題に目を向け、その解決に向けて行動する その2 チームでプロジェクトのゴールとその価値を考え、活動計画を立てる その3 学習履歴図によるふりかえりを行い、次の行動計画に反映させる
時間	8時間		
参考資料	書籍『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』		

期待できる学習効果

- ・その1 学んだ知識や技能を活用しながら、社会課題の解決に向けて、行動することができる。
- ・その2 大学での学びにつながるプロジェクト学習を自ら企画することができる。
- ・その3 学内外の人物とゴールに向けて協働することで、コミュニケーション力を身につけることができる。

授業内容

本校では、高校3年生の内100名近くが12月の時点で大学の進路を決定します。その生徒対象に行った「桐朋女子×SDGsプロジェクト」の今年度の受講生は78名です。大人数なので教室に入りきらず、図書館を貸し切って、授業を行いました。1回目の授業では、6人ずつの班、計13班に分かれて書籍『未来を変える目標 SDGsアイデアブック』を読んだり、過去の先輩の活動実績を参考にしたりしながら、学内外の社会課題に目を向けました。その中から、各班ごとに問いを立て、自らゴールを決め、自分にとって、そして周りの人や社会にとってのプロジェクトの価値を考え、PBL(Project Based Learning)の企画書を作成しました。11のプロジェクトの内容は、以下の通りです。

- 1班「私たちの防災対策はたりているのか？ポスター制作」
- 2班「仙川の魅力とは？マルチマップをつくる」
- 3班「貧困国の人々にできることはなにか？ Square Knitをつくる」
- 4班「パン屋は食品ロス削減のためにどのようなことをしているのか？フードロスポスターの制作」
- 5班「食品ロスを減らすためには何ができるか？食品ロス解消レシピ」
- 7班「未来の桐朋女子をよくするためには？模擬店企画書の作成」
- 8班「なぜ私たちは学校で十分な防犯教育を受けないのか？提案書の作成」
- 6・9班「災害が起きた時に私たちはどのように役に立てるのか？ちくちくボランティア」
- 10班「誰でも安全・安心に暮らせる街づくりとは？交通安全&バリアフリーマップをつくる」
- 11・12班「仙川の町にどのくらいゴミが落ちているのか？地域清掃」
- 13班「桐朋女子でよりよい環境で過ごすためには？校内清掃」

2回目の授業では、行動計画を立て、3回目の授業では行動計画に沿ってアクションを起こしました。コロナ禍で入学式やさまざまな学校行事もできず、経験値が少ない生徒たちにとって、みんなで協力しながら、プロジェクト学習を通してアクションを起こすことは困難を伴ったと思います。そのような中、最初とはまどいながらも、自ら立てたゴールに向かって協力しながら行動している姿がとても印象的でした。

桐朋女子×SDGsプロジェクト

学校名: 桐朋女子中・高等学校 名前: 吉崎亜由美

子どもたちの反応・感想

1班 私たちの防犯対策はたりているのか？避難時に心がける「おかしもち」に関するポスターと防災袋のイラストを作成し、校内に貼りました。

桐朋生に向けて避難の大切さを気づかせられるようなポスターを作成できた。

4班 パン屋は食品ロス削減のためにどのようなことをしているのか？購買のパン屋にインタビューし、ポスターを作り校内に掲示しました。

食品ロスの現状と削減方法を学ぶことができてよかった。購買部という身近な存在から世界の問題を知ってもらうきっかけになれば嬉しい。身近な食品ロスについて知り、食品のことを掘り下げることで食品の大切を改めて実感した。食品を破棄しないことだけでなく、食べられる量を買うことが大切だと感じた。

5班 食品ロスを減らすためには何ができるか？余った食品を使用して簡単に作れる料理のレシピ案を考えました。

用意する食材や調理手順が簡単なので、ぜひ一度作ってみてほしい。生活に役立てるレシピを調べられてよかった。また食品ロスについてより知ることができた。家で余った食材があれば自分でも活用してみたいと思った。どれも簡単に作れるレシピを集めたので、ぜひ作ってみてほしいです。自分でもためになることが多かったので、とてもいい機会になりました。

6・9班 災害が起きた時に私たちはどのように役に立てるのか？水害などで被害を受けた地域に雑巾を届けることを目標に、古布を集め、雑巾を作り、ADRAジャパン「ちくちくボランティア」へ雑巾130枚を送りました。雑巾作成を通して被災地について考えることができました。現地に向かわなくても、私たちにできることがあるとわかりました。今までは、どこかの地域で災害が起きた時に自分のできることはないと思っていましたが、この活動を通して少し社会に貢献できたと思います。これまでニュースなどで状況を知るだけの傍観者で終わることがほとんどだったが、雑巾を送ることで少しでも力になれたと思う。多くの雑巾を作ることができ、みんなと協力して目標を達成することができたと感じた。被災地に実際に足を運ばなくても支援をする方法があるのだと知りました。このプロジェクトを通して見えない場所にいる誰かのために行動する事を学べました。

2・10班 生徒と先生に向けて、様々な視点から見た仙川駅周辺の情報をポスターにまとめました。

今回のプロジェクトでは、短時間でグループ全員が協力し、マップという形で計画を実現でき、仙川の地形もよく知ることが出来た。皆で情報を集めて、発信することが出来ていい経験が出来ました。今後も皆で話し合っ活動することがあると思うので、活かせればと思う。みんなで話し合っ一つのプロジェクトができて良い経験になった。調べたり話し合ったりする内に、普段使っている通学路に意外と危ない場所があること等がわかって仙川の街への理解が深まった。今回はテーマ決めの段階から班全員で意見を出し合い納得のいく成果を挙げられた。今後大学生になったら意見を出し合う授業も多いと思うので良い機会になったと思う。今回のプロジェクトを通して、仙川について詳しく知ることが出来たので、より暮らしやすい生活が出来そうだ。自分たちで交通安全について考えることで安心・安全の理解を深めることができた。また、たくさんの人々にこのマップを用いて仙川駅周辺の安全を学んでほしい。

11・12班 仙川にはどれくらいのごみがあるのか？仙川の街をきれいで住みやすい街にする！

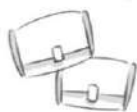
調布市環境政策課に問い合わせ、トングなどの道具を貸していただいた。タバコやマスクが多く落ちていた。缶も多く、中身も入ったままのものが多かった。私たちの活動を見て、ごみを捨てる人が減ればいいと感じた。ゴミが落ちていないきれいなところと沢山ポイ捨てされている場所が分かれていた。沢山ごみが捨てられているから自分もいいかという気持ちでポイ捨てする人も多いと思うので今回のごみ拾いという活動には大きな意味があると思い、やりがいを感じた。はじめは、あまりごみが落ちていないと感じていたが茂みなどのなかなか目のつかない場所に多くのごみが落ちていた。また、同じ場所に同じようなごみが落ちていたことから習慣的にごみを捨てている人がいるのではないかと考えられた。渋谷や都会に比べたら落ちているゴミは少なかったが、端にゴミを捨てることが多いことが分かった。住みやすく、少しは登校する時に気持ちよく登校できるようになったのではないかと考えた。

避難時のお約束

お かない
さ ない
か けない
け ない
し やべらない
べ ない
も だらない
ど ない
ち かづかない
か ない



万が一に備えよう 防災袋 セット



生理用品





Food Lossを減らす

まだ食べられるのに捨てられてしまう食べ物を「食品ロス（フードロス）」といいます。食べ物を捨ててしまうのはもったいないだけでなく地球環境にも悪影響が出てしまいます...
これからの未来に向けて、食品ロスを減らすための様々な取り組みが行われているのが現状です。



販売のパン屋さんにインタビュー

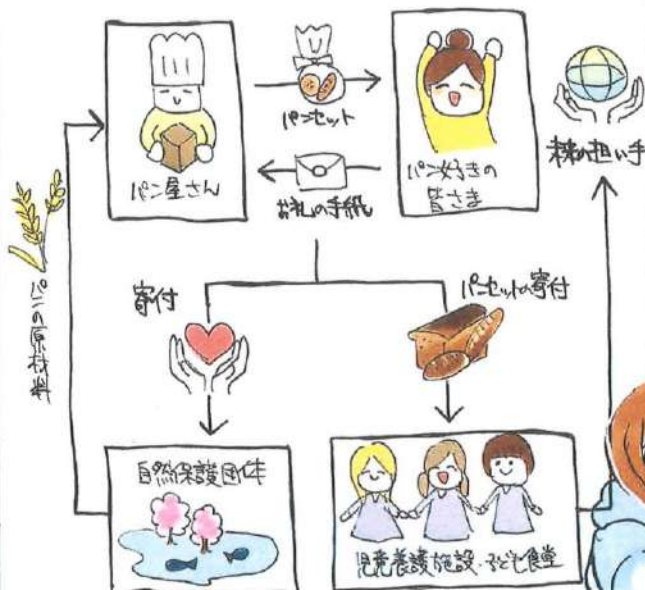
ここでは棚卸の残存で売っているパンについて取り上げます!!

- Q1. 日にどのくらい売れ残るのか
→ 日によって全然違うが、多い時には4割程度残ることもある
- Q2. 売れ残ったパンはどうしているのか
→ お店に持ち帰って再販
- Q3. 日によって入荷数を変えているのか
→ 午前授業のみの日は少なめにしている



食品ロスを減らす取り組み rebake (リバイク)

—— ロスパンを安い値段でお取寄せ ——



リバイク
rebakeは食品ロスを減らし、食料やそれを生み出す土地が持続的に守られる社会に取り組んでいます。

この取り組みのおかげでロスパンの削減に成功!!!

削減量が

300tを超えた

お持ち帰る重さで表すと



× 約10両分



パンをお取寄せして食品ロス削減に貢献しよう



簡単につくれる 食品ロスレシピ!!

＜ロールキャベツ＞ 	材料 ・キャベツの葉 2枚 ・冷凍ぎょうざ 4個 ・水 200 mL ・鶏がらスープの素 小さじ1	作り方 ① キャベツの葉を洗い、スジを薄くそぐ。 ② 洗って耐熱袋でレンジ600w 1分加熱する。 ③ ぎょうざを2個、スジを手前にして置く。 ④ 手前から巻き、途中で左右を織り込んで巻いて楊枝で止める。 ⑤ タッパーにロールキャベツ、鶏がらスープの素、水を入れ、レンジ600w 4分加熱し、反して4分加熱する。
＜きゅうりのスープ＞ 	・きゅうり 1/2本 ・鶏がらスープの素 大さじ1 ・水 600 cc ・乾燥わかめ 1つまみ ・白ゴマ 少々	① きゅうりを拍子切りする。 ② 鍋に水と鶏がらスープの素を入れる。 ③ 沸騰したら きゅうりとわかめを入れる。 ④ わかめが戻ったらゴマをちらしてできあがり!!
＜もやしの佃煮＞ 	・もやし 1袋 ・醤油 50 mL ・削り節 4g〜 ・砂糖 大さじ5 ・しょうがチューブ 1 cm	① 鍋にもやし、削り節、砂糖を入れて中火で炒める。水分を飛ばすようによく炒める。 ② 水気がなくなったら、醤油、しょうがチューブを加え、さらに水っぽさがなくなるまで炒めて完成!! ※ 焦がさないように注意!
＜牛乳プリン＞ 	・牛乳 400 mL ・砂糖 25 g ・ゼラチン 5 g ・水 大さじ2	① ホウルに水とゼラチンを入れ、ふやかしておく。 ② 牛乳・砂糖を弱火にかけ、なるべく泡立たないように混ぜる。 ③ ①を加え、よく混ぜる。 ④ ゼラチンと砂糖が完全に溶けきったら、お好みの容器に入れる。 ⑤ しっかり固まるまで冷やしたら完成。
＜みかんジャム＞ 	・みかん(中) 8個(700g) ・砂糖 300 g ・レモン果汁 大さじ2 ・水 3カップ	① みかんはよく洗い、皮をむく。 ② 皮は3分ほどゆでて水に取る。 ③ 皮と実を細かく切る。 ④ 鍋に③と水を入れ火にかける。 ⑤ 沸騰したら砂糖、レモン汁を加え、ふたをして弱火で40分煮る。

13班 校内清掃



11・12班地域清掃

6・9班
ちくちくボランティア



自分たちにできることは何だろう

学校名:福島県立平支援学校 名前:稲田健実

対象 高等部1学年

科目 現代の国語

時間 5時間

参考資料

高等学校 新編 現代の
国語(第一学習社)
アイデアブック等

題材名

『イースター島になぜ森がないのか』鷲谷いづみ

目標

その1 主張と論拠、個別の情報と一般化された情報、推論の仕方など、情報の扱い方について理解することができる。(知識・技能)
その2 イースター島の歴史について理解し、筆者が提示する人類と生態系のあり方について考察することができる。(思考・判断・表現)
その3 本文の解釈を踏まえて持続可能性について考えを深め、積極的に考えたことをまとめることができる。(主体的に学習に取り組む態度)

期待できる学習効果

- ・その1 森が無い原因と解決策を確認できる。
- ・その2 協働して解決策や方略を考え、まとめる。(自分事化・論理性)
- ・その3 解決策や方略を発表する。(自分事化・論理性)

授業内容

1 かつてのイースター島はどうであったか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。



2 なぜ森が無くなったのか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。



自分たちにできることは何だろう

学校名:福島県立平支援学校 名前:稲田健実

授業内容2

3 どうすればよかったか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。

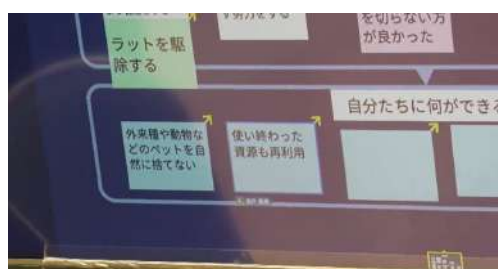


4 自分たちに何ができるか

- ・ロイロノートでシンキングツールを使ってまとめる。
- ・共有ノートを使う。
- ・対話しながら協働して進める。



子どもたちの反応・感想



☆生徒の感想

- ・シンキングツールを使うとまとめやすかった。
- ・自分のこととして考えることができた。
- ・根拠をもって、自分の考えをまとめることができた。